

釧路市教育委員会 令和5年第1回1月定例会会議録

1 日時：令和5年1月27日（金）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、大山教育指導参事、早坂学校教育部長次長、北澤北陽高校事務長、池田総務課長、澤口生涯学習部次長、島スポーツ課長、石川学芸主幹、鈴木動物園長

4 議事録署名人 種村委員、小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）2023くしろ20歳のつどいの開催結果について

（2）台湾との交流について

（3）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 2023くしろ20歳のつどいの開催結果について

(澤口生涯学習部次長)

報告事項1、「2023くしろ20歳のつどい」の開催結果について、報告させていただきます。

本年の20歳のつどいは、本年度新たに20歳となる方々を対象に、去る1月8日の日曜日、コーチャンフォー釧路文化ホール、阿寒町公民館、音別町文化会館の市内3会場において、手指消毒、換気、非接触での受付などの新型コロナウイルス感染症の防止対策を講じた中で開催した。教育委員の皆様には、大変お忙しい中、各会場にご出席いただき、お礼を申し上げます。今回の20歳のつどいの対象者は、1,520人で、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者が事前作成したQRコードを用いた出席確認を実施し、当日の参加人数は、3会場合わせて1,006人となり、対象者に対して、66.2パーセントの参加率となった。

式典内容については、昨年度に引き続き、公式インスタグラムを開設し、釧路会場の式典の動画配信や、会場にいられた参加者の記念写真などを投稿した。後日、阿寒・音別会場の様子と合わせて、当日の式典の様子をYouTubeにて動画配信を実施することとしている。また、当日参加者に配布する式典パンフレットや、啓発や告知のチラシは、ペーパーレス化を図り、スマートフォンで閲覧できるようにした。会場内では、ふるさとにUターンして就職して欲しいとの願いを込め、釧路の企業情報を紹介した冊子やチラシを設置した他、QRコードからも検索できるUIターン就職の支援事業について情報提供を実施したところである。

新たな試みとして、釧路会場において、市民文化会館内の喫茶店を運営している「きっさこいぺ」のキッチンカーの出店や、写真映えスポットの設置など、参加者が楽しめる企画を実施した。一般社団法人釧路自動車協会ほか7団体からご寄贈いただいた、参加者に贈る記念品については、これまでのエコバックから木製スマートフォンスタンドに変更した。このスマートフォンスタンドは、「くしろ木づなプロジェクト」の一環として、音別町のカラマツを材料に、阿寒町の工房で加工された純釧路市産の記念品となっている。当日は、釧路会場では入場受付において混雑し、開始時刻を5分遅らせるなどあったが、教育委員会職員にも会場整理などのお手伝いをいただき、その他大きな混乱も生じることなく、予定どおり滞りなく終了することができた。

関係者の皆様に重ねてお礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

(岡部教育長)

民法改正になり、成人年齢が引き下がって初めての20歳のつどいで、去年までは成人式とも呼んでいたが、今年からは成人式という呼び方は適当でなくなった。各教育委員の皆様にもそれぞれの会場に足を運んでいただいた。それぞれの皆さんから感想等頂ければと思

う。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

私は阿寒会場の方へ行かせていただいた。当初は、書いてある通り対象者26名であったが、参加者は男性ばかり6名で振り袖姿が1人もいない、ある面寂しい20歳のつどいであった。事務局の職員の方々は、対象者26名に対して、極力阿寒会場に出席して欲しいというアプローチをしたが、高校時代の友達に会いたいという思いから、20名は釧路会場に行かれてしまったという職員のコメントもあった。市町合併以降、阿寒地区、音別地区に対するいろいろな配慮ということで3会場開催を行ってきたが、今年の阿寒会場の実情を考えると、そろそろ釧路会場1本に絞ってもいい時期なのではないかという個人的な印象を受けた。参加した6名は大人しく整然とできたため、それはそれでよかったのかなと、何も問題なく行えた。

(澤口生涯学習部次長)

釧路会場、阿寒会場、音別会場の3会場で行ってきているが、今頂いた意見と実情と、今の中学2年生か3年生が2名しかいないと音別会場からも言われており、その前には釧路会場に集約できるかどうか、地域住民の声も聴きながら話し合いを進めていきたいと考えている。

(山口委員)

教育委員会の業務は、その地域にとってどうなのかという視点よりも、参加する子供たちが主人公であるため、20歳になった対象者にとってどうなのかという視点で判断するのが一番重要な気がする。

(澤口生涯学習部次長)

併せて、これから20歳になる中学生、高校生の皆さんの声も聴いていきたいと思う。

(岡部教育長)

阿寒会場、音別会場の議論というのは相当前からあるにもかかわらず、あまり進んでいないのが現状であるため、山口委員のご指摘の通り、そろそろ具体的に検討を進めていく時期なのではないかと思う。おっしゃる通り、音別地域の今後20歳のつどいの参加対象になる人たちがどのくらいいるのかという具体的な数字も含めて、ただ単に声を聴いていきたいというのではなく、その声の聴き方を具体的にどのように進めていくのかであるとか、そろそろ具体的に検討していく時期ではないかと思う。その時の視点は、地域の声も取りながらもそれに先んじるのは対象となる人たちの思いだと考えるため、私からも改めてお願いしたい。

(種村委員)

音別会場に参加し、去年も音別会場に参加したが、確か去年は6人くらいで、今回は9人であった。9分の9ということで、音別の方は意義を感じているのではないかなと思う。振り袖の方がたくさんおられて非常に華やかな雰囲気、最後にスマホで写真をとるなど現代

っ子らしい感じであった。その中でも厳かに行われて、男の人たちの方が大人しい感じであったような印象であった。9分の9はすごいと思う。

(澤口生涯学習部次長)

音別に確認したところ、参加対象者の9人は住民登録している9人であるが、今回参加した6人か7人が住民登録している方で、残りの参加者は、住民票はないが誘われてきたということで、対象の9人が来たというのとは少し違うようだと話を聞いている。誘い合ってきてくれたということである。

(小出委員)

まずコロナ禍以降、いろいろ対策や準備をしつつ、準備等大変だったであろうと思いつつ、ご苦労様でしたということで参加させていただいた。二十歳になる若者や保護者にとって記念となるような、保護者にとっては子供の成長を振り返る機会になるし、このような機会を開催、運営していただくことに私自身感謝したし、毎年多くの保護者や参加者がそう思いながら参加しているのだろうと思いつつ今回参加させていただいた。インスタの方もフォローして見たが、皆さん振り袖を着ている子たちも晴れやかな感じで嬉しそうでしたし、スーツを着ている男の子たちもお友達と久々に会って、楽しそうに映っているのを見ることができ、開催できてよかったなと思った。寒い中、交通整理してくださった方、本当にお疲れ様でした、ありがとうございますということで、お伝え願えればと思う。委員会も総出で当日の運営にも携わっていただき、ご苦労様でした。

(靱山委員)

出席予定であったが家族の体調不良ですみません。そんな中で感じたこととして、インスタグラムやライブ配信のユーチューブなど、インスタグラムとかだと二十歳の子たちは使っている方が多いのかなというところで、とても良いと思った。これを行うのも大変だったと思うが、見ると二十歳じゃなくても地域の方が元気をもらえらると思う。釧路市の中でもフェイスブックやラインの中で、やりましたよと発信することも、地域にとってのプラスになるのかなと感じた。

(澤口生涯学習部次長)

ありがとうございました。

【公開案件】 報告事項

(2) 台湾との交流について

(工藤生涯学習部長)

台湾訪問に伴う、花蓮市への表敬訪問、台湾炭鉱博物館と市立博物館の友好館協定締結と、台北市立動物園への表敬訪問並びに、北陽高校の見学旅行の交流訪問について報告する。

1月10日には昨年8月31日に当市と友好交流協定を締結した花蓮市を表敬訪問し、釧路市長をはじめとする訪問団が、花蓮市 魏市長並びに関係者との交流を行い、今後の幅広い交流を深めることを確認した。

翌11日には、台湾との友好の証である2羽のタンチョウ「ビッグ」と「キカ」に待望のヒナが誕生したことを祝し、市長や教育長はじめ、関係者の方々と台北市立動物園を表敬訪問し、あわせて開催されたセレモニーでは、台北教育局専委、台北市立動物園長他、多くの市民からの温かい歓迎を受け、蝦名市長からはヒナ誕生に祝意が表されたところである。

その後台北市の隣、新北市に移動し、釧路市立博物館では、2011（平成23）年から交流を続けてきた、台湾炭鉱博物館との友好館協定の締結にあたり、共催で締結式を開催し、釧路市からは市長や教育長、市議会議長などが出席した。台湾からは台湾炭鉱博物館長のほか、政府文化部次長や新北市幹部なども出席し、両地域の博物館交流を行政も支援することが表明された。

また、北陽高校の見学旅行の交流校となる「景文高級中学」「木柵高級工業職業学校」を、教育長や北陽高校 上野校長はじめ関係者が訪問し、交流内容の打ち合わせや本年11月14日（火）に「景文高級中学」を訪問することで確認をした。

今後においても、釧路市と台湾との友好関係が広がりを見せており、博物館では台湾炭鉱博物館のパネル展の開催、研究交流を継続させるほか、文化やスポーツ、観光など幅広い分野において、関係をしっかりと築き上げ、お互いの交流を深めていけるよう取り組みを進めてまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

以前から台湾との交流が進められてきたことは大変喜ばしいと思っている。以前、訪問団の中に有志というか、市民で手を挙げて参加したい方々も一緒に同じ飛行機に乗って行くというか、行った後のスケジュールは別途変わると思うが、コロナ禍ということで訪問等が難しい状況で、そういう動きは今見えてきていないが、今後の見通しとして台湾との訪問、交流の場面に、一緒に参加できるようなことも今後考えてほしいという一市民としての希望もあるため、どこかで受け止めておいていただければと思う。それと質問で、ビッグとキカに待望の子供が誕生し、リーホーと命名されたということであるが、タンチョウの世界では子供が生まれると一定期間は親と一緒に生活するが、その期間が過ぎると親が子を離す時期が来る。そうしたときに、雌のリーホーの新たなつがいとして、こちらから将来的にプレゼントするということは見通しとしてあるのか。

（鈴木動物園長）

今回の訪台のなかで、タンチョウの貸与については台北市立動物園と話合いの場を持ち、台北側の方がこれから繁殖を迎える3タンチョウを、繁殖に向けてまた取組んでいきたいという意向を確認したため、動物園としても生息域外保全を進める上でもできる限り協力していきたい。ただ、タンチョウは国の特別記念物、今後のビッグとキカの繁殖の状況、また鳥インフルエンザが世界的に蔓延しているということもあるため、そのような課題も含めた中

で協議しながら進めていきたいと話をさせていただいた。

(山口委員)

台湾側の要請があれば国の許可をもらいながら、釧路市としては台湾に提供する姿勢は持っているということか。

(鈴木動物園長)

いろいろなケースが考えられるため、相談しながら進めていきたいと考えている。

【公開案件】 報告事項

(3) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

3学期が始まり、学校ではコロナとインフルエンザの同時流行で学級閉鎖等の対応に追われている。現状でいうとコロナはほとんど出ておらず、インフルエンザによる学級閉鎖が何学級か行われている。

毎年のことであるが、3学期は1年間のまとめと来年度の準備の時期になる。特に来年度は、教育推進基本計画の1年目になり、小中ジョイントが本格的に始まり、同時に大楽毛地区と音別地区においては、義務教育学校開校の準備期間に入る。

教育長の年頭のあいさつで話していた通り、様々なことが新しく始まり、これまで以上に教育が注目される年になると思っている。私たちも学校も来年度の計画をしっかりと立てて確実に進めることが必要であると校長先生方にも伝えた。

1点目は、釧路市校長会にお礼を伝えた。今年度の校長会が初めて学力向上・授業改善に校長会として主体的に取り組んだメンバーである。児童生徒による授業評価や教職員による管理職評価は、校長にとっても教員にとってもインパクトのある取組で、教育委員会だけではなく校長も本気であることを内外に示すことができた。このあとは、この評価をどのように学校経営に生かすかが校長先生一人一人に課せられた課題になる。

また、1月の校長会議では、校長会からの要請で「大館市の視察報告」を指導主事の方からしている。校長会には、以前のような意見調整機関ではなく、市教委と一体となって学校改善を進める組織として機能させるようお願いをしている。なお、この話を3月ではなく、この時期にしたのは、このあとに来年度の校長会役員の選出があり、しっかりと覚悟をもって役員を引き受けていただきたいと考えたからである。

2つ目は、来年度に向けた事業についてである。各学校では、すでに学校評価が終わり、来年度の学校経営案を作成する時期になっている。この時期に早めに市教委の考えを示すことで、学校経営案に市教委の考え方が載って、教育行政方針は出来ていないが、そのために概要を説明した。校長先生方には、市教委の示す方向性を十分理解して、資料に示した取組＋αで学校経営を考えるようお願いした。また、小中ジョイントを進めるために、校区で校長先生が互いにアイデアを出し合ったり、議論を深めたりするなど積極的な取組をお願い

した。

3つ目は、12月議会についてである。本会議で質問があった「がん教育に外部講師を活用して欲しい」という要請があったため、それを含めて、他、何点か要望があったことについて校長先生方にお伝えした。

4つ目は、帯広市の大空学園義務教育学校の視察について説明した。概要は、そこに示している内容であるため省略する。

5つ目は、12月の校長会議でお願いした通りに釧路市教育推進基本計画をグラの段階で送付してある。「学校経営方針にどのように位置付けるか」「学校評価に成果指標をどのように生かすか」などを全部読んで考えるようお願いした。訂正はあるが、まずは概要を各学校に送付して読んでいただく。

最後にコロナとインフルの同時流行の際の対応について説明した。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

今参事から説明された中身で、今年度素晴らしい成果が生まれたのだという印象を受けた。具体的には、校長会が意見調整機関ではなく、市教委と一体となって学校改善を進める組織として機能した、来年も継続して欲しいというのが一番印象的であった。大館に釧路市のマイスターの先生方中心に訪問して、一番感心して帰ってきたのは授業の素晴らしさもさることながら、どの学校へ行っても校長先生が胸を張って大館市の教育、教育委員会で考えている教育方針を自分事として受け止め、胸を張って滔々と自信をもって説明できており、そこに非常に感激して帰ってきたという話を聞いた。まさに今の説明の中にあった釧路市の教育推進基本計画、それを受けて来年度出される教育行政方針、それを踏まえて校長先生方が自校の学校経営計画を自分事として出していく必要が大切なことだと思う。それが今年度、これから2月、3月、来年の学校経営方針を校長先生が考える時期に来ているため、それが生かされるような学校経営方針にさせていただければと。そういう校長会になってきていると聞いて、ぜひ実現して欲しいなと感じた。

(大山教育指導参事)

すごく大事なことで、毎年校長先生が10人近く入れ替わって、最後の2年、3年を釧路市という状況がある。時間的制限があるので、校長会の協議の中で進めていくことが大事であることから、校長会をお願いしている。

(小出委員)

校長会の報告に関して、今年度、児童生徒による授業評価や、教職員による管理職評価をしていると思うが、その結果が出るのは年度末なのか、もう出ているのか。

(大山教育指導参事)

これは校長会が行っているため、各学校に校長先生がその結果を見ることができ、教育委員会で集めるということとはしていない。あとは校長先生の判断ということで、お任せしてい

るところもある。話を聞くと、かなりよい形で成果が出てきているようであり、子供たちが書く評価の中に、先生方にとっては少し厳しい意見も出たりしていて、校長先生によってはそれを先生方に示しながら活用している。

(小出委員)

授業改善が必要な場合に子供たちの評価など、授業改善に向けてすごくうまく使えるものではないかと思う。

(大山教育指導参事)

今回初めて行い、来年度の学校職員評価制度の中の期首面談など、そういうところにも今年の物を使って先生方に指導してもらおうことになっている。来年度は課題のある先生に、どのような指導をしたのかということを経済委員会に提出してもらおう形を整えている。特に指導力の低い先生に頑張ってもらいたいということで動きたいと思う。